



岐阜南ライオンズクラブ

第 1321 回クラブ結成55 周年記念例会報告

2013年4月2日(火)15:00 岐阜グランドホテル

司会 幹事 L伊藤 宏幸

アシスタント L大島 恵子

第1部 記念式典 (ロイヤルホール)

開会宣言・開会ゴング

会長 L藤田宜良

国旗並びにライオンズ旗に礼

国歌斉唱並びにライオンズクラブの歌斉唱

物故会員追悼式

幹事 L伊藤 宏幸

先の50周年記念会以降、今日までの5年間にお亡くなりになりました12名のライオンの追悼式を行います。

私たち岐阜南ライオンズクラブは、昭和33年のクラブ結成以降、このような大きなクラブに成長できたのは、これも一重に「奉仕活動に」あるいは「クラブ運営のために」献身的にお力添えをいただきました、在りし日の諸先輩方のおかげです。その姿を偲びつつ、私たち一同は、更なる地域への奉仕をお誓い申し上げ、哀悼の意を表します。

2008年 5月20日ご逝去	故 L伊藤 曠	享年 87歳
2008年 6月16日ご逝去	故 L毛利 吉光	享年 90歳
2008年 10月13日ご逝去	故 L林 弘	享年 89歳
2009年 2月21日ご逝去	故 L杉山 博	享年 80歳
2009年 5月30日ご逝去	故 L今井 栄男	享年 67歳
2010年 2月12日ご逝去	故 L苅谷 福充	享年 73歳
2011年 1月 18日ご逝去	故 L野々村重雄	享年 83歳
2011年 11月 5日ご逝去	故 L安達 勲	享年 68歳
2012年 4月16日ご逝去	故 L赤塚 勲	享年 88歳
2012年 5月 3日ご逝去	故 L市原 富郎	享年 89歳
2012年 8月 7日ご逝去	故 L栗山 宜久	享年 68歳
2013年 3月11日ご逝去	故 L高瀬 啓一	享年 88歳

以上12名のライオンです。

ご来賓紹介

幹事 L伊藤宏幸

本日の式典の為に御臨席を賜りましたご来賓のご紹介をいたします。

岐阜市長

細江 茂光 様

笠松町長

広江 正明 様

引き続きまして、ライオンズクラブ関係のご来賓のご紹介をします。

ライオンズクラブ国際協会 元国際理事 国際第二副会長候補者

L山田 實紘

334-B地区 第1R ホストゾーンチェアパーソン

L葉原健七郎

334-B地区 第1R 第3Z ゾーンチェアパーソン

L福村 善光

334-B地区 第1R 第1Z 岐阜ライオンズクラブ会長

L地守 素子

332-C地区 第4R 第3Z 南三陸志津川LC 前会長

L小坂 勝美

332-C地区 第4R 第3Z 南三陸志津川LC

L藤谷 廣司

332-C地区 第4R 第3Z 南三陸志津川LC

L高橋 渡

334-B地区 第1R 第4Z 本巣ライオンズクラブ会長

L堀部 好秀

334-B地区 第1R ホストゾーンチェアパーソンアシスト

L加藤 裕夫

334-B地区 第1R 第3Z ゾーンチェアパーソンアシスト

L堀 三三男

ご紹介したご来賓の皆様のほかにも、本日はブラザークラブをはじめ、多くのライオンにご出席をいただいております。

時間の都合上、お手元の名簿でのご紹介に代えさせていただきます。

歓迎のことば

結成55周年記念会 実行委員長 L土本俊行

桜舞う今日 清流長良川のほとり、この岐阜グランドホテルにおいて、私ども岐阜南ライオンズクラブの結成 55 周年の記念会を開催するにあたりご案内を申し上げたところ、公務多用のなか、岐阜市長細江茂光様、笠松町長廣江正明様、元国際理事・国際第二副会長候補者であります山田實紘ライオン、地区役員、ならびにスポンサークラブである、岐阜ライオンズクラブ会長幹事そして遠路より南三陸志津川ライオンズクラブより 3 名の会長経験者のライオン、そして、昨年友好クラブとして盟約しました本巣ライオンズクラブ、ブラザークラブ方々の、ご臨席を賜り、盛大に開催できますことは、クラブ員の大きな喜びでございます。



特に、遠路、駆けつけていただきました南三陸志津川ライオンの皆様には、大変お世話になり南三陸町の被災者の皆さんへの支援をさせていただく有意義な記念事業の一つができましたことに感謝いたします。

2部では 元国際理事の山田實紘ライオンおかれましては、国際第二副会長候補者として世界各地を訪問する中で活躍されている中で、特に時間の制約がある中で、この式典のため時間を割いていただき、「日本ライオンズのアイデンティティ」の演題でお話を承ることは、大変うれしく思います。お話いただいたお言葉を、私達ライオンとしてこれからの活躍の指針とし生かしていきたいと思っております。

この日を契機に私ども会員は、初心に立ち返り、ライオンズムの高揚に精進し、地域社会のために奉仕する所存でございます。

本日ご臨席賜りました皆様方には、今後とも相変わりがせぬご指導を賜りますことをお願い申し上げ、歓迎の言葉とさせていただきます。

式 辞

本日はここに私たち岐阜南ライオンズクラブ結成 55 周年を迎えるに当たり、来賓各位をはじめ先輩クラブ並びにブラザークラブ・友好クラブの皆様には公私ともご多忙の中を多数ご臨席を賜り誠に有り難うございました。謹んでお礼申し上げます。

わが岐阜南ライオンズクラブは昭和33年4月2日、岐阜ライオンズクラブをスポンサークラブとしてチャーターメンバー34名をもって日本で74番目のクラブとして結成されて以来、この間「ウィ・サーブ」をモットーとして地域社会に数々の奉仕活動を行ってまいりました。

そして、昭和35年には羽島ライオンズクラブを、昭和42年には岐阜長良川ライオンズクラブをスポンサーさせていただきました。わがクラブは現在家族会員を含め142名の大クラブに成長できましたことは、私どもの慶びにたえないところです。

さて、昨今の経済状況や社会情勢の中でのライオンズを取り巻く環境も大変厳しいものがあります。しかしながら、この様な時こそ活動の原点である奉仕と友愛の精神を発揮して、未来の希望を、若人に夢をモットーに社会に何らかの形で寄与しなくてはならないと考えます。

私どもは、今日この日を契機に過去55年の足跡を振り返りながら、今後さらに充実したライオニズムの高揚を目指し会員一同全力で努力してまいる所存でございます。

ご臨席の皆様には、今後ともご指導くださいますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

会長 L 藤田 宜良



結成55周年記念事業の発表

(スライド形式のDVDで発表)

- | | |
|---------------------|--|
| ①ぎふ清流国体支援金 | ¥ 500,000 円(平成 24 年 9 月 27 日に寄贈) |
| ②南三陸町復興支援 | ¥ 1,500,000 円(平成 24 年 10 月 28 日に寄贈) |
| ③南三陸志津川LC支援 | ¥ 500,000 円(平成 24 年 10 月 28 日に寄贈) |
| ④笠松町港公園記念植樹 | ¥ 300,000 円(平成 25 年 2 月 22 日 植樹式を行いました。) |
| ⑤岐阜市鶉飼ミュージアムへの時計台設置 | ¥ 700,000 円(平成 25 年 3 月完成) |

結成55周年記念会 記念事業部会 部会長 L 葛西 栄二

記念事業目録贈呈・感謝状拝受

会長 L 藤田 宜良

時計台一基 岐阜市鶉飼ミュージアムへ寄贈します。
岐阜市長 細江茂光様へ

感謝状

商工観光事業に暖かいご支援有難うございます。
そのご好意に深く感謝いたします。

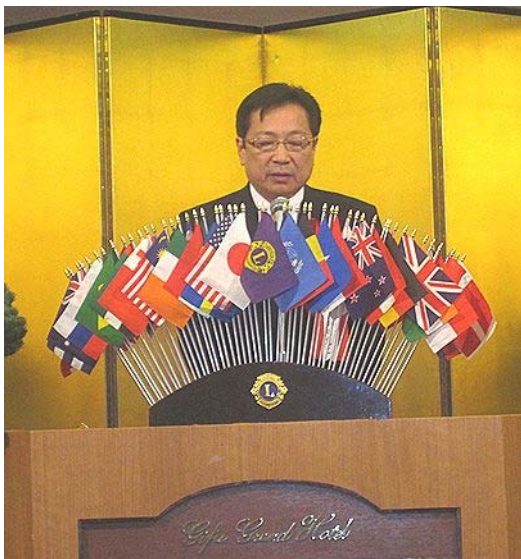
櫟 一本 笠松町みなと公園へ寄贈します。
笠松町長 廣江正明様へ

感謝状

公園等景観整備事業として樹木を贈呈していただき感謝いたします。

お礼の言葉

南三陸志津川LC L小坂 勝美



本日は岐阜南ライオンズクラブ結成 55 周年記念会にお招きありがとうございます。

一昨年の3月11日に発生しました東日本大震災より先月で2年が過ぎました。我々宮城県南三陸町町民や我が志津川LCのメンバーは深い悲しみを抱き、辛い涙を数え切れない程流してきました。わが町は 876 名の死亡と未だ 200 名以上の方が行方不明で見 つかっていません。岐阜南LCさんよりご支援いただききっかけは、大震災後半年ほど経って平成23年10月19日の事でした。当時の川出前会長様より支援の申し出をいただいたお電話が始まりでした。昨年2月24日、川出前会長他2名様が当町へおいで頂き、義援金を頂戴致しました。また、昨年10月28日には藤田会長他、日帰りで当町にいらして頂き、震災故児義援金を頂戴致 しました。また、仮設住居生活者に生活物資の支援を頂き贈呈式まで行って頂きました。本当に有難う御座いました。

現在、当町は58箇所の仮設住宅が有り、未だ5000名以上の人が仮設住宅で生活しております。多くの方が震災前に住んでいた場所に帰りたと思っています。反面、思うように復興が進まない現実に近隣の市町村に居住を構えた方々もいらっしやいます。そんな変動する南三陸町の中で、我々が出来る事はメンバーで力を合わせ奉仕活動を続けていく事だと思っています。本当の意味での復興は、まだまだ先になりそうですが、皆様に足を運んで頂ける様な南三陸町になる様、微力ながら力添えをしていきたいと思っており、本日、震災後に作成した当町のパンフレットも持参させて頂きました。後程、会長様にお渡ししたいと思っております。

最後になりますが、3月11日の東日本大震災以来、御支援ご協力を頂きました岐阜南ライオンズクラブの会員の皆様の御健勝とご多幸をお祈りしまして、これまでの御礼と挨拶に変えさせて頂きます。

本日は結成 55 周年、本当におめでとう御座います。

スポンサークラブへの感謝状と記念品の贈呈

会長 L藤田 宜良

昭和 58 年 4 月、私共、岐阜南ライオンズクラブ結成にあたり、スポンサークラブとして、多大なご協力を賜りました。おかげを持ちまして、我がクラブはこの度、結成55周年を迎える事が出来ました。この間の御指導と御支援を賜りました事、誠に感謝に耐えません。本日ここに55周年記念式典を行うにあたり、記念品を添えて深く感謝の意を表します。

スポンサークラブ会長ご挨拶

岐阜ライオンズクラブ会長 L地守 素子

岐阜南ライオンズクラブの皆様、本日はクラブの結成 55 周年をお迎えになりました。おめでとうございます。

岐阜南ライオンズクラブは1958年4月2日結成の日をお迎えになって以来、55年の長年に渡り会員増強、数々の魅力ある地域貢献、世界に向けてのアクティビティ等、着実な発展と多大な成果を挙げ続けてこられました。心より敬意を持ってお喜び申し上げる次第でございます。この記念すべき日に、この会にお招き頂き、そしてお祝いを申し上げる機会を頂きましたことも誠に嬉しく光栄に存じます。今後益々、地域の牽引力として大きく育っていき60周年70周年と御発展を続けられる事をお祈り申し上げてお祝いの言葉といたします。

本日は結成55周年、おめでとうございました。



ご来賓祝辞

岐阜市長 細江 茂光 様

この度、岐阜南ライオンズクラブ結成55周年、本当におめでとうございます。

昭和33年に、このクラブが結成されましたが、波乱万丈の年だったと思い出しました。浅間山や阿蘇山が噴火したりしておりますし、また東京タワーが出来た年でもあるそうです。長島茂雄さんが公式戦に初めてお出になったのも昭和33年であります。アサヒビールが日本で初めて缶ビールを発売したのもこの年だったそうです。と言う意味で、大変波乱万丈のこの昭和33年に設立されました岐阜南ライオンズクラブが、すくすくと成長され、立派な会となられまして、大変厳しい経済状況にも関わらず一番会員数の多いクラブになられたのも、本当に心から敬意を表するとともにお祝い申し上げたいと存じます。



笠松町長 廣江 正明 様



今日は、岐阜南ライオンズクラブの結成55周年、本当におめでとうございます。

皆様方が奉仕の精神の元にいろんな事業の中で、私共の町でも大きな影響を与えて頂いた多くの事業がございます。時代を担う青少年の健全育成の為に活動や、また環境整備・環境保全の為に活動や、その地域への奉仕活動によって様々な素晴らしい実績を挙げておられました。特に、私共の町においても、中央公民館の大きなグランドピアノが岐阜南ライオンズクラブ様からの御寄付だったり、岐阜県で唯一と言われるビオトープのメモリアルのいろんな物も頂いたり、笠松町港公園に記念樹を頂いたり、大変、私共の地域や行政に対して大きな力添えを頂きました。ここに町民の皆様を代表して心からお礼を申し上げたいと思います。

この55周年をしっかりとみなさんが団結をして、そしてまた、深い絆のもとに築き上げてきたこのライオンズクラブが、今後ともより一層地域社会の向上や地域の住民の皆様のご生活の安全安心の為に、いろんな方面で御活躍されることを心からお願い申し上げますとともに、このクラブが今後共、素晴らしい御発展をされ、会員の皆様により一層、ご健康ご健勝で御活躍さます事を心から願い申し上げます、私共に対するお礼や、あるいは55周年のお祝いや含めて、簡単ではありますが、御挨拶に代えさせていただきます。

今日は本当におめでとうございます。

国際協会アワードの伝達

ライオンズクラブ国際協会 元国際理事 L山田實紘

チャーター・モナーク・シェブロン賞 L 入山憲和



モナーク・シェブロン賞

- | | |
|-----|----------------------|
| 40年 | L 松波 英一 |
| 35年 | L 岩田 佐平 |
| 25年 | L 安江 靖和 |
| 20年 | L 後藤 正 L 高橋 弥喜 |
| | L 高間 敏宏 L 田中 正臣 |
| 15年 | L 野村 満喜子 |
| 10年 | L 金武 正幸 |

ホームクラブ在籍15年の表彰

L 川口真市

L 長谷川 正

L 洞田 肇

L 村橋 宗男

会長 L 藤田 宜良

L 渡辺 波男

閉会ゴング

会長 L 藤田 宜良

第2部 記念講演（ロイヤルホール）

講師紹介

ご紹介を兼ねて何故、出なくちゃならなくなったかという話を致します。今、世界の中で一番日本の存在が無いって事に実感しているのはL山田ではないでしょうか。今、日本は周辺国なのです。それをL山田が実感した訳なのです。2005年、今から8年前なのですが、いろんな経緯が有りまして、不本意ながら国際理事に出ざるをえなくなり、日本の代表として国際理事にL山田が乗り込んだ。その時に、運が良いのか悪いのか、1年目の理事で長期計画委員会にさせられた。2年目に長期計画委員会プラス執行役員で重役になり、未来学者に、20年後にはライオンズクラブは解散すると言われ、L山田は考えた。どうしたら良いのか。まずメンバーを増やす事、その為には家族会員のシステムを増やそうではないか。

と言うことで家族会員を提案した。そうしたら世界の国際理事が大賛成された。今までの日本の理事の中で積極的に意見を述べたのはL山田だけ。いままでの国際理事の方は発言が無かった、それが日本の存在を無くした原因なのです。だから、日本と言う国はアジアの周辺国になってしまった。どこに行っても日本の存在は無いのです。そう言う事を国際理事だと実感する。これではいけないと実感される。国際理事になりたいと自分で思ってたのではなく、国際本部が日本人で初めて意見を述べる人が出てきたんだと、あなたは世界のライオンズを救う人なのだと、国際本部で決められた。足を引っ張る人もいたけど、だんだん解ってきた。今、日本から出さないとやっぱり日本はダメかとなる。だからL山田は自分の全く意思の反した事をせざるを得なくなったのです。国益の為に彼は出るので。それをどうか皆様方に御理解頂きたいと思います。彼は今体を張って頑張っております。世界を一周しております。日本の為に、日本ライオンズの為に、世界のライオンズの為に、彼は本当に社会貢献をしている事を御理解頂いて、今日のお話を伺いたいと思います。

記念会名誉会長 L松波 英一



演題 『日本ライオンズクラブのアイデンティティ』

講師 ライオンズクラブ国際協会 国際第二副会長候補者 L山田 實紘

アイデンティティの話をさせていただきます。南三陸志津川LCの方達が参加されておりますが、私も震災地まで行って見てきております。あの震災の津波の後に世界のライオンズクラブが18億円を約1ヶ月の間に集めまして、それをなんとか使って下さいと言う動きがありました。そしてまた当然の事ながら、いろんなクラブから直接、震災地へ送金されたり、現地へ行かれたり、すべてを合わせると、すごい数の方達が支援金を送られている。

私がある時に非常に憤りを感じたのは、ライオンズクラブで奉仕活動をしている中で、いつも東北の方はどうなっているのだろうとテレビで見ていると、日赤のマークばかりだが、日赤に集まったお金は3500億円だと聞いておりますが、実際に現地に届いている支援金は、まだ使われていないのが現実、現場の方に全然届いていない。これ



は現地に震災地の方が1番よくご存知なのではないでしょうか。ところがライオンズクラブはダイレクトに現地に足を運び、汗をかき、手渡してお手伝いをして帰ってくる。それに対して何も手数料を取ってないのですが、日赤は2割から3割は手数料を取ってしまう。その手数料で日赤の建物なりその補修なりしている。私はその事に対してとても憤りを感じて、ライオンズとは実際なのだ本当に最高の奉仕活動ではないかと、日本では日赤の方が上なのかと思える。一般の方達は日赤のほうが上だからとか、中にはとんでもないライオンズがいて、ライオンズで集めてお金を日赤に持って行っている。美濃加茂市の市長が集めてお金を日赤に渡しましたと言われて、ライオンズに持って来てくれれば手数料無しで、直接現地に行って渡すのにと注意しました。

まだまだ素晴らしいライオンズという組織が日本にはまだ認識されていないと言う事なのです。ライオンズで集まったお金は有意義に使っている。バングラデッシュやアフリカで困った住民へ行ったり、いろんなところに行っている。日本ではそれだけの認識がありません。寄付金の50%が日本から出ているのにも関わらず、日本から国際理事が出ていない。出すお金だけで良いのか、いろんなところからは日本からお金が出ないであろうかと、声がいっぱいあります。しかし、日本だと出る杭は打たれる。私が非常に感じるのは出る杭は打たれるのは日本の文化だと思いましたが、年寄りのやきもちは本当に嫌なものです。ほとんどの男性の年寄りの方が日本の足を引っ張っている。日本の為に出ないといけないのに、代わりに出てくださいと言うと出られない。だったら足を引っ張らないで下さいと言っております。

日本の文化と言うのは国際色豊なところでは活躍出来ないと感じました。私は去年、世界各国を回って来ました。いろんな各国に行ってきた。インドに行って、体調を崩しながらでも、アメリカでもヨーロッパでもアフリカいろいろ回ってきました。韓国にも行ってきました。韓国の人口は日本の半分ですが、そのうち日本の人口が抜かれてしまうであろう。抜かれてしまうと日本のライオンズ文化は全滅するだろうと国際協会では日本を応援してくれております。

自分達がライオンズのバッジを付けていて本当にライオンズに入って良かったなとプライドを持てるようなライオンズクラブにしていきたいと思えます。自分達が世界で奉仕団体の一員であることと言う事を認識する事が1番大切なことと思えます。

第3部 記念祝賀会（ロイヤルシアター）

祝 舞 能 『羽衣』

玉 井 博 祐 様

（宝生流 シテ方、重要無形文化財総合指定保持者）

あらすじ

駿河の国（静岡県）、三保の松原が舞台。ある春の日、白龍という漁夫が釣りに出たところ、浜辺の松原に見慣れぬ衣が掛かっているのを見つけます。良い香りがし、見たこともない美しさに家の宝にしようと思つて持ち帰ろうとすると「それは私のもの」と呼びかける女の声。「それは天人の羽衣で人間に与えるようなものではない」と続けますが、「それがないと天上に帰れない」、「いや返さない」とやり取りする内に、かわいそうになった白龍は「天人の舞を見せてくれたら返そう」と言います。（物着）喜んだ天人は羽衣を身にまとい、天上の舞楽を舞いつつ空高く帰って行ったのです。



(祝賀パーティ)

開宴のことば
乾杯

55周年式典部会部会長 L 鈴木 伸二
334-B 地区第1R HZC L 栗原健七郎



ライオンズ・ローア

第1R 第3Z ZC L 福村善光

また会う日まで 合唱



閉宴のことば

第三副会長 L 後藤暢之